

令和6年度（2024年度）学校経営報告

1 学校経営の具体的な重点目標と総括

① 授業

学習指導の根幹ともいえる評価・評定の見直し、定期考査のあり方などについて校内研修を実施し、これまでの取組を検証するとともに、新たな評価・評定のあり方について校内の意識統一を図った。

日々の授業については、教員の日々の研鑽により、8割を超える生徒が肯定的な受け止めをしている。授業にも、生徒は落ち着いて取り組んでいる。学力調査や「はちおうじっ子ミニマム」などの取り組みを通じて、生徒のつまずきを認識し、その対応ができているのか、生徒の家庭学習を含めた自主的な取組は十分なのか、教員の学習指導にさらなる改善はできないのかなど、しっかりと足元から学習指導を見つめ、問題点があれば全校で共有し、対応していく意識を高める必要がある。

常に、研鑽に励み、教員間で学びあう雰囲気をいっそう高めていくことが大切だ。

② 特別活動

自治活動においては、生徒会役員、各委員会の生徒の意識の高さを感じることができた。活動も充実し、自分たちで問題を把握し、取り組んでいた。その動きを、それぞれの担当教員がしっかりサポートしていた。生徒も教員も多忙の中で難しいことではあるが、これまでにない大きなプロジェクトに取り組むなど、挑戦的な活動ができるというその飛躍が期待できる。

同様のことが学級・学年の取組にも言える。日々の指導による活動により、生徒の主体的な活動が展開された。特に、全学年とも学級委員の学級や学年の課題を見据えた活動が見られた。

部活動改革は、全教員での意思統一がなされ、令和9年度の本格実施への道筋を策定することができたが、これから新たな課題が見えてくるものとする。その一つ一つに、教員の働き方、生徒の思いをしっかり受け止めて、誠実に対応していくことが必要だ。

体育祭、合唱コンクール、儀式的な行事などの見直しを進めてきた。全教育活動の中で調和のとれたものとなっている。

第十小学校と連携し、児童・生徒が地域で育つ環境を地域とともに充実させる。

③ 地域協働

これまでの学校運営協議会委員による取組、青少年対策委員会との連携もあり、地域と学校の関係はいっそう強まり、活動も活性化している。そこには、地域の方と担当教員の献身的な努力があり、互いの信頼関係を強めている。

地域での演奏を活動の主体とする「ひよどり太鼓」の活動をはじめ、青少年対策委員会主催の「ひよどり山音楽祭」へは生徒が実行委員として参加し、吹奏楽部も出演するなど、地域における本校生徒の活躍も際立った。そうした中で、中学生が主体となって小学生を楽し

ませる企画も新たにスタートし、地域における「ひよ中生」の存在感が高まっている。

2 小中一貫の取組と総括

八王子市立第十小学校との連携が強くなった。小学校の運動会に本校生徒がボランティアとして参加して小学生の面倒をみる直接的な交流は昨年同様に実施し、「はちおうじっ子サミット」では「ピンクシャツデー」では、小学生とのさらに充実した話し合いができた。小学校児童会をリードしようという本校生徒会役員の意識も高まっている。第十小学校児童からも本校への親近感を感じている。

そして、生徒情報の引継ぎ、基礎学力の定着など、取り組むべき課題は小学校と連携して中学校でもしっかり受け継いでいく。今後いっそう、第十小学校との連携を強め、「地域で生きていく力を9年間でつける」を合言葉に取り組んでいきたい。

3 安全管理

施設の老朽化が進み、常に安全を確認する必要がある、毎朝、副校長、用務主事が校舎内や敷地内の安全を確認している。副校長の観察眼、用務主事の技術の「2つの高さ」が本校の安全を守っている。生徒の施設使用状況には大きな問題はない。

これまでの取組を続け、常に「万全」とは言えない施設の管理を教職員全員の目で確認して行く必要があることは変わらない。

また、災害時を想定し、本校が避難所となった場合の動き（生徒が地域の方への対応を担う場面での責任と動き）を訓練し、地域の安全などについても学習している。特に、本校周辺は人気の少ないところが多いので、細心の注意が必要である。交通安全、犯罪から身を守るなど日常生活において「身を守る意識」をさらに高めていく。

4 人権教育に関わる取組と総括

人権教育の在り方、生徒の思いを受け止め、支えていく体制の在り方、保護者との連携を含めた信頼関係の確立など、さまざまな課題を改めて確認することとなった。その中で、教員間の連携、保護者との問題の共有についての、学校全体の意識を高めることができたが、本当の意味での前進となっているかは、常に試されるものだと考える。

常に「命の大切さ」を生徒に訴え、考えさせていくことの重要性を改めて確認し、日々の教育活動、道徳の授業において命を大切さを中心とした指導をしている。6月に開催した道徳授業地区公開講座では「命の大切さをともに考える日」として、講師の先生にご講演をいただいた。

また、SNSなどでのプライバシーに関わる動画の拡散、心無い言葉を送るなどの行為について危険性を認識させ、人権を意識した行動について考えさせた。

人権、そして命の大切さについては、常に生徒に訴え、考えさせていく必要がある。

5 学習指導（学力向上を含む）に関すること

地域全体で育むという点で、学校運営協議会を中心とした学習教室の充実、英語・漢字検定の実施、定期考査前の学習会など、学びの機会を充実させながら、学習意欲を高めている。ICTを活用した家庭学習など、生徒の主体的な学習の充実のためにさらに工夫した取組を進めてい

く必要がある。

6 生活指導（いじめや不登校への対応を含む）に関すること総括

生徒の問題行動、心配されるような行動には、迅速かつ適切に対応できた。いじめ問題に関しても教員の意識が高まり、いじめ対策委員会を中心に、きめ細かく丁寧に対応した。

不登校対応も少しずつ前進している。生徒の状況に合わせた短時間、別室登校などの取組を実施している。全校的な組織的対応も進んできている。外部との連携を強めながら、一人一人の生徒に対応する。

7 キャリア教育に関すること

1年生で「働くこと」「生きること」について考える機会となる「ジョブトーク」を実施した。これは、本校保護者が講師となって、「働くことの意味」や「生きること」について話すというもので、キャリア学習のスタートとなっている。2年生で職場体験を実施し、3年生で自らの進路決定へと進んでいく。大きな枠組みの中での、系統的な指導を進めることができている。広い視野で自分の未来について考え、今すべきことを見極められるように、キャリア教育を充実させる。

本校が伝統的に取り組んでいる「農作業体験」も重要なキャリア教育となっている。

8 保護者や地域との連携に関すること総括

保護者との信頼関係を安定したものとするために、情報発信をきめ細かに行うことで学校の考えや姿勢を伝え、また保護者会や面談のみならず、日常的にも気軽にご相談してもらえる環境づくりを進めてきた。一方、学校評価アンケートを見ると、全体的にはご理解いただいているが、今年度も質問項目によっては「わからない」という回答が多かった。「いじめ」「生活指導」「学習環境」などでの「わからない」については、しっかりと伝えるべきことを伝え、お話を聞き、保護者や地域とのより良い関係づくりに努める。

9 特別支援教育に関すること

特別支援教室拠点校2年目を迎え、特別支援教室主任が今年度は本校担当日を増やしたため、校内体制がいっそう充実した。教育力も向上し、さらには小学校との連携を深めることができた。そして、通常級との連携が深まり、巡回指導教員によるサポートにより、担任の困り感にも寄り添えるようになった。

特別支援教育のさらなる充実を実現していくことが、“一人も取りこぼすことのない学校”につながり、教員の生徒理解、指導力の向上にもつながっていく。特別支援教育は、本校の根幹である。